

### 3 - 15 茨城県八郷町における3成分ひずみ計による連続観測結果 (1984年2月～1985年10月)

Results of Continuous Observation by Two Borehole Three-component Strainmeters  
at Yasato, Ibaraki (from Feb. 1984 to Oct. 1985)

国立防災科学技術センター  
National Research Center for Disaster Prevention

茨城県八郷町に設置されている2本の3成分ひずみ計による連続観測結果の一部については、既に報告したが<sup>1)</sup>、今回は、新しく得られた結果について報告する。

第1図は、1985年5月から同年10月までの6か月間の、3成分ひずみ計2本の合計6出力を各月ごとにあらわしたものである。縦軸は各室の断面積変化であり、サンプリングは毎正時である。各室の名付け方は第2図に示してある。

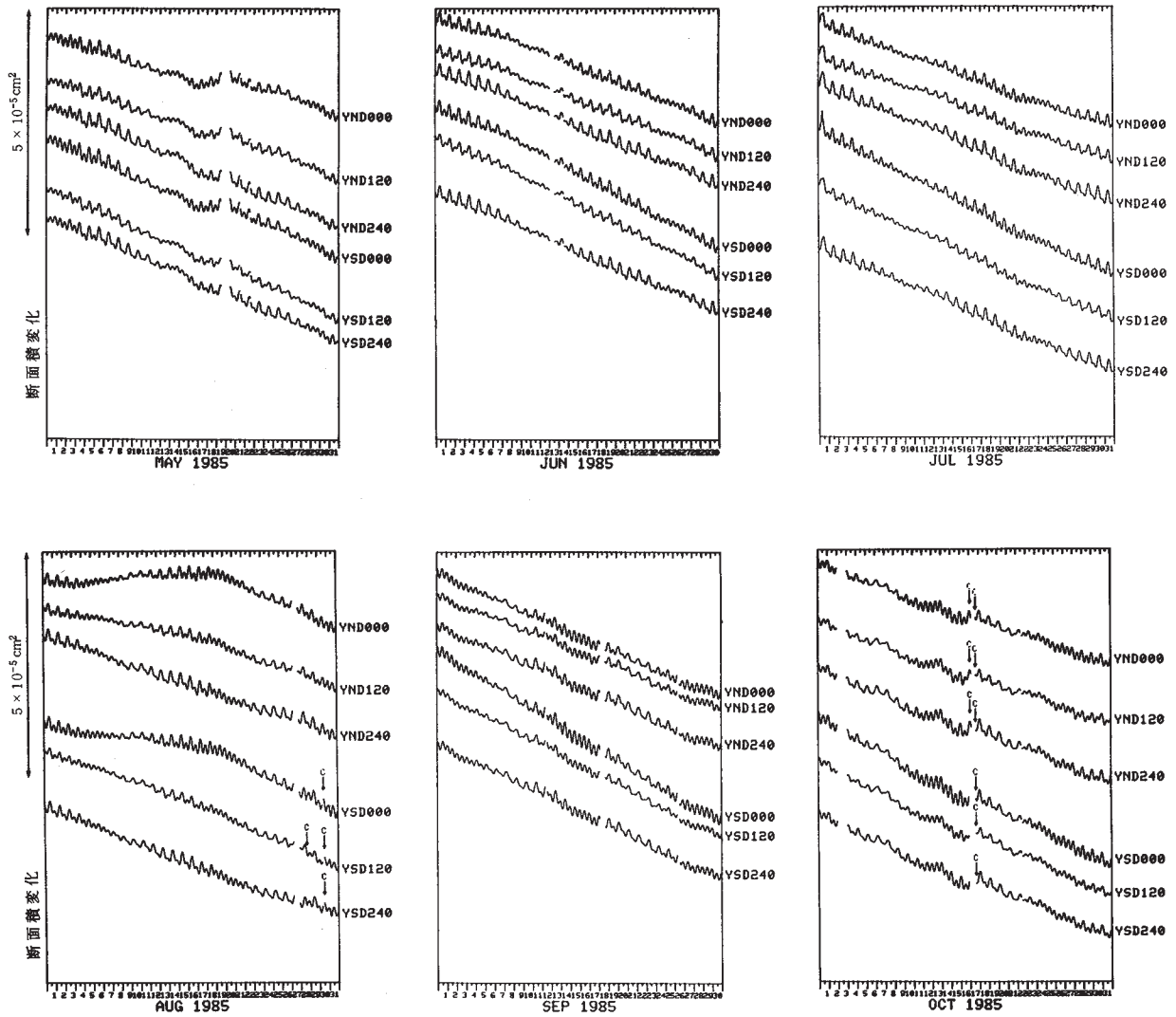
8月になって、第1断面(YND000, YSD000)に大きな変化が起こっている。第2断面(YND120, YSD120)もこれと同期的に若干の変化が認められる。これらの変化をより大局的に見るため、第3図には、1984年2月から1985年10月までの日平均観測値を示す。全体を総合すると以下のようにまとめることができる。

- (1) この変化は1985年8月初頭に始まり、8月中旬にはピークに達した。その後減衰に至っているが、余効は10月まで継続しているように見える。
- (2) 大きなドリフトからの差が、真の異常地殻変動であると考え、ひずみ変化の値を求めた。最大及び最小ひずみ、最大ひずみの方向は、第1号機からは、 $(1.83 \times 10^{-7}, -0.85 \times 10^{-7}, N12^\circ E)$ と得られ、第2号機については、 $(1.41 \times 10^{-7}, -0.68 \times 10^{-7}, N10^\circ E)$ となった。
- (3) このように大きくかつ明瞭な異常変動が観測されたのは初めてであり、原因はわかっていない。

(坂田正治・島田誠一)

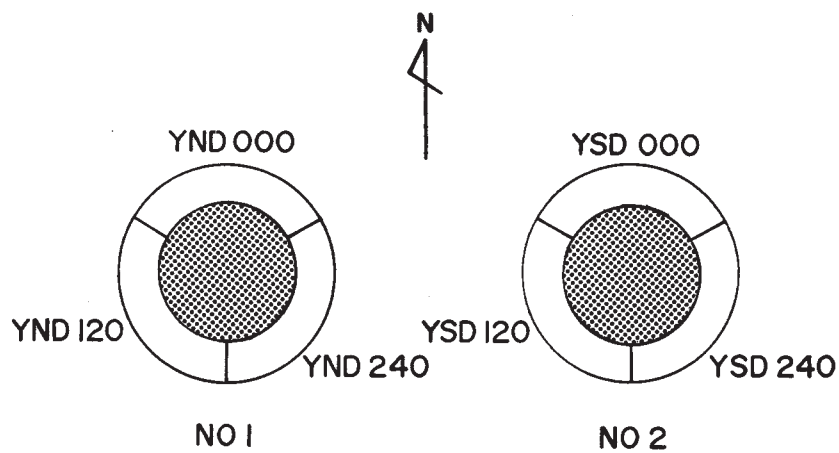
#### 参 考 文 献

- 1) 国立防災科学技術センター：茨城県八郷町における3成分ひずみ計による定常観測結果、連絡会報, 34 (1985), 190 - 191.



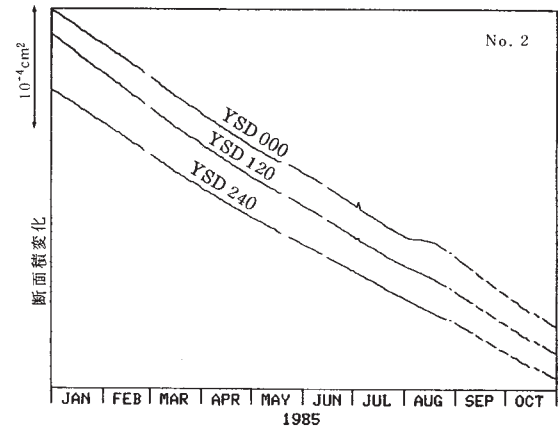
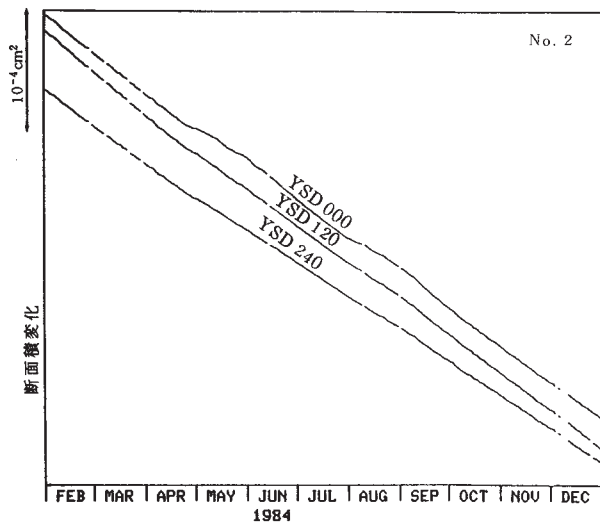
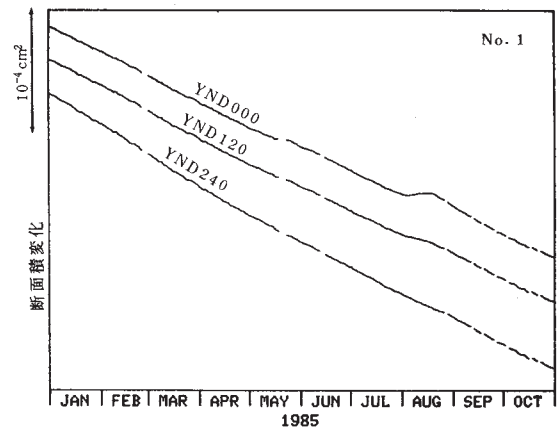
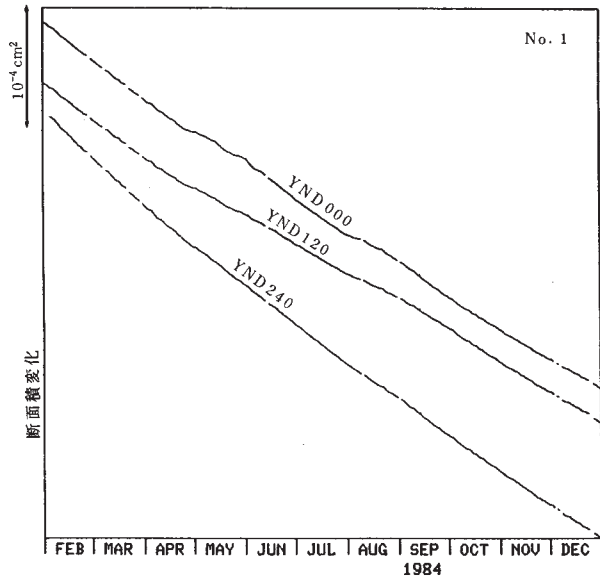
第1図 3成分ひずみ計による連続観測結果 (毎正時観測値)

Fig. 1 Changes of room areas of two borehole three-component strainmeters (hourly values).



第2図 3成分ひずみ計各室の名前

Fig. 2 Nomination of three rooms of each strainmeter.



第3図 3成分ひずみ計による連続観測結果（日平均観測値）

Fig. 3 Changes of room areas of two borehole three-component strainmeters (daily means).